

# 宮中取水ダム減水区間における 令和3年度モニタリング調査計画

令和3年1月27日

信濃川中流域水環境改善検討協議会

## 【モニタリング調査計画の考え方】

- 減水区間の水温は、水温回帰モデルで推定が可能であるため、水温実測は終了し、モデルを用いた評価に変更する（第32回中流協議会）。ただし、モデルで推定するためには、減水区間に流入する水温が必要であるため、宮中取水ダム魚道における調査は継続する。
- 魚類の生息・生育状況は、令和元年東日本台風後も、冷水性魚類や上流域側を主な生息域とする種の個体数は安定していた。これらの傾向は、減水区間が位置する中流域の魚類相として問題ないと考えられることから、今後の調査は、減水区間の上下流で実施されている河川水辺の国勢調査の魚類調査と併せて減水区間でも調査を実施し、傾向を把握する。
- サケの遡上数は、平成29年度のサケ稚魚放流開始以降、令和2年度には遡上数の増加が確認されており、長野県の魚類分布調査も実施予定のことから、サケ遡上調査は継続する。

以上を踏まえ、令和3年度のモニタリング調査計画は、以下のとおりとする。

### 宮中取水ダム減水区間における令和3年度モニタリング調査計画

項目	調査内容	調査時期	調査地点
河川水温 <sup>注)</sup>	水温実測	夏季の高水温期 (7月26日～9月5日)	宮中取水ダム魚道
魚類の生息及び 遡上・降下	生息・生育状況調査	5年1回 (河川水辺の国勢調査 魚類調査で代替)	宮中取水ダム下流減水区間
	サケ遡上調査	サケの遡上期 (9月11日～11月10日)	宮中取水ダム魚道

注) 河川水温は、水温回帰モデルを用いて、十日町橋，栄橋，川井大橋の夏季高水温期（7/26～9/5）の日最高水温を評価する